

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター この街きっず学園 保育所等訪問支援事業		
○保護者評価実施期間	2025年11月21日		～ 2025年12月12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○従業者評価実施期間	2025年11月21日		～ 2025年12月12日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 29名
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月21日		～ 2025年12月12日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月27日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性を活かした支援	療育のキャリアのある職員による、子供への具体的な支援を目的で行うことにより、現場での発達障がい児支援の理解と方法を学んでいただく。	より良い支援・専門性の高い支援を目指していけるよう、研修等自己研鑽に努めます。研修における人材育成も行っていきます。
2	地域保育士研修の受け入れ	地域の保育士に実際の支援と一緒に行っていただくことで、保育園での発達障がい児支援の受け入れを広げていただく。具体的な支援を見ていただき、地域で自分の担当するお子さんの困り感等を話して一緒に支援方法を探る。研修をしていただくことで、子供たちにとって安心して分かりやすい環境を学んでいただき、それぞれの現場で実践してもらおう。	広く具体的な支援の研修を行っていききたい。
3	保護者支援	子どもの困り感をご家族や保育園等にお聞きして、子どもの関係する機関との連携の仕方や支援の方法を丁寧にお伝えしています。	引き続き、ご家族に寄り添い、保育園との連携を密にしながらか適切に対応していききたいと思います。 保育園の思いを丁寧に聞き取り、ご家族や保育園相互の信頼関係を構築して、保育所等訪問支援が集団の中での適切な支援がなされるよう努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門性のある職員の確保	訪問支援員は、児童発達支援センターにおいてもそれぞれ役割がある中、5年以上の療育経験豊富な児童指導員や訓練士が就いている。専任ではないため訪問に限度が生じ、利用できる家庭が限られてしまう。	要望がある場合、誰が就くか検討し、一人の負担が多くならないように配慮する必要があると思っている。
2	職員の研修	保育所等訪問支援員のための研修があまりないため具体的な研鑽が難しい。	研修会や勉強会を行い、他事業所との情報交換等行って向上していききたいと思います。
3			